

海神会だより

〒658-0022 神戸市東灘区深江南町5-1-1 神戸大学深江キャンパス内 海神会事務局

ホームページ<http://fukae.org/>のご案内:最新の情報が随時追加されています。ぜひご覧ください。

海神会会長就任にあたって

西原 興一郎(10E)

この度、神戸商船大1期生で元学長の井上篤次郎会長の退任に伴って、海神会の会長に選任頂いた、神戸商船大10期機関学科の西原興一郎です。

2003年10月に神戸商船大学と神戸大学が統合され海事科学部が設置されました。これを機に、海事科学部同窓会が、(社)海洋会と、神戸商船大学卒業生の親睦会であった白鷗会を基盤として設立され、2007年5月の同窓会総会で海神会と名付けられました。

私達、卒業生には、1917年創設の私立川崎商船学校に始まり、官立神戸高等商船学校、国立学校神戸商船大学と90年を超えて一貫して、海洋を活用できる人材と様々な技術を育んで来たという自負があります。そしてその思いを、脈々と次の世代に伝えて行く、同窓会組織を確立し発展させて行かねばならないと考えております。

今、日本も世界も、一極支配の幻想が終わり、物を離れた経済から、物作りの実体経済への回帰という、大激動の時を迎えております。そして、この21世紀、日本人は、今の生活レベルを維持して、食べて行けるかという大きな命題が、眼前にあります。

2008年の統計では、日本は26.3兆円のエネルギー源と食料を輸入し、自動車、電子部品、鉄製品を26.9兆円輸出して、世界とかかわって生きております。そして、その物流の主体は、船舶を介して具体化しております。

また、日本の国土面積は、38万km²と、世界61位ですが、領海と排他的経済水域は、447万km²で、世界6位です。

これからも、世界は、日本の車や電子部品、鉄製品を買い続けて、日本を支え続けるのでしょうか。今後は、海洋そのものを、資源化し、資源大国として生きて行く可能性も十分有ります。

海事科学部の案内リーフレットに海事科学部がめざすものとして、これからの海事社会を創造し国際的に社会貢献を果たすことのできる多くの若人を世に輩出すること、とあります。卒業生から見て、今の社会は、技術が細分化され、幅広い知識技能を持った技術者が減ってしまっていると、感じております。リーダーに必要な、教育は、少々乱暴とは思いますが、知識、感情、意思の調和を企てる、全人教育と考えます。

幅広い知識技能を身につけると同時に、バランス感覚にすぐれた全人教育は、この深江のキャンパスに、90年超えて受け続けられてきました。

私共卒業生は、若い世代に、脈々と受けつがれてきた、気概と熱き思いを、伝えて行く使命がある筈です。この同窓会、海神会がその一助を、果せる様にするのが、皆様方に、そして深江のキャンパスに対する私の御恩返しの一つと考えております。

関係する全ての方々のお力をお願ひし私の挨拶いたします。



退任にあたり

前会長 井上 篤次郎(1N)

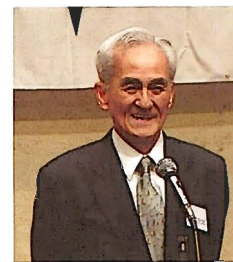
昨年5月の海神会総会において会長を退任しました。神戸商船大学と神戸大学との統合にあたり新しく海事科学部の同窓会を設立することとなり、平成16年2月の設立総会において会長に選任されてより5年が経過しました。

まったく新しい同窓会のスタートであり試行錯誤の連続で、思えばずいぶんと皆様にご迷惑をおかけしましたことお詫び申し上げます。それにもかかわらず、なんとか軌道にのってこれたのは準備段階からはじまる皆様の温かいご協力とご援助のお陰であり、改めて感謝申し上げます。

神戸大学基金そして神戸大学海事科学振興財団の寄付につ

いてもお願いをし多大のご協力をえましたが、深江は新たな態勢に入っており今後とも引き続きご支援をお願いします。

人格にすぐれ経験豊かな西原興一郎新会長のもと、海神会はますます洋々たる未来にむけ発展することを信じ、会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念してご挨拶とします。有難うございました。



ご案内 平成22年度総会

日時:平成22年5月15日(土)16:00~17:00
 場所:兵庫県民会館 11階 パルテホール
 議題:平成21年度収支決算、平成22年度の予算、活動報告など

参加申込み先

総会および同窓会懇親会に出席される方は、5月6日までに下記宛先まで、FAXまたはメールにてご連絡頂きますようお願い致します。また、同窓会ホームページには会場の案内地図も掲載しています。

FAX:078(431)6439 E-MAIL:almamata@maritime.kobe-u.ac.jp

懇親会

日時:平成22年5月15日(土)17:30~19:00
 場所:兵庫県民会館 11階 パルテホール
 会費:¥5,000

■兵庫県民会館

住所:神戸市中央区下山手通4-16-3
 電話:078-321-2131

同窓会の活動



平成21年度理事会・総会報告

平成21年5月16日の海神会総会で海神会の設立準備段階から5年間もの長きに亘り、会長を努められた井上会長から、この度、西原興一郎にバトンタッチがなされました。また、神戸大学海事科学部では石田廣史海事科学研究科長の副学長就任に伴い、小田啓二研究科長・学部長が就任されました。会長人事にも紆余曲折がありました。同窓会海神会が更なる発展がなされます様ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。



第6回総会式次第

海神会(神戸大学海事科学部同窓会)

日時:2009年5月16日 16:00~17:00

場所:兵庫県民会館 11Fバルテホール

- ① 議長選出
- ② 議事録署名人の選出
- ③ 議案
 - 1) 平成20年度事業報告
 - 2) 平成20年度決算報告
 - 3) 平成21年度事業計画、予算案について
 - 4) 役員改選について
- ④ 事務局報告および支部報告
- ⑤ 閉会の辞

平成20年度 海神会 収支決算書

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

収入の部

科目	20年度決算額	20年度予算額	差異	備考
1.会費収入				
既卒業生	900,000	3,000,000	△2,100,000	
新入生・在学生	4,680,000	4,800,000	△120,000	
2.雑収入				
受取利息	22,636	10,000	12,636	
寄附	172,500	10,000	162,500	総会寄付(資費工業+鈴木氏)など
その他	850,000	0	850,000	総会懇親会費
当期収入合計	6,625,136	7,820,000	△1,194,864	
前期繰越収支差額	5,149,539	5,149,539	0	
収入合計(A)	11,774,675	12,969,539	△1,194,864	

支出の部

科目	20年度予算額	20年度決算額	差異	備考
1.事業費				
総会・評議会等経費	1,594,564	800,000	794,564	懇親会費の85万円を含む
会報発行費・送料	0	1,250,000	△1,250,000	発行が次年度に
HP維持費	236,775	250,000	△13,225	
記念グッズ支援費、各支店費	1,863,518	2,350,000	△486,482	3期生、13期生分。23期生は前年済
関係団体経費、会報制作	248,727	460,000	△211,273	
小計(a)	3,943,584	5,110,000	△1,166,416	

(単位:円)

科目	20年度決算額	20年度予算額	差異	備考
2.管理費				
人件費	639,000	1,050,000	△411,000	
会議費	12,440	30,000	△17,560	
旅費・交通費	62,500	250,000	△187,500	
印刷費	47,250	100,000	△52,750	
通信運搬費	23,360	50,000	△26,640	
什器備品費	0	150,000	△150,000	
消耗品費	157,843	130,000	27,843	
光熱水費・賃借料	66,045	70,000	△3,955	
雑費	70,050	100,000	△29,950	送金手数料など
小計(b)	1,078,488	1,930,000	△851,512	
3.予備費(c)	360,750	2,929,539	△2,568,789	会費返却、HP改訂講習会費
小計(a+b+c)	5,382,822	9,969,539	△4,586,717	
4.特定預金積立金				
特別会計へ拠出	3,000,000	3,000,000	0	
小計(d)	3,000,000	3,000,000	0	
当期支出合計(B=a+b+c+d)	8,382,822	12,969,539	△4,586,717	
次期繰越収支差額(A-B)	3,391,853	0	3,391,853	

平成20年度 海神会 特別会計 収支決算書

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

収入の部

同窓会基金の部

科目	20年度予算額	20年度決算額	差異	備考
1.一般会計から受入	3,000,000	3,000,000	0	同窓会基金として移管(註)
2.雑収入				
預金利息	30,000	94,148	△64,148	
小計	3,030,000	3,094,148	△64,148	
前年度繰越収支差額	25,036,099	25,036,099	0	
合計(A)	28,066,099	28,130,247	△64,148	

支出の部

科目	予算額	決算額	差異	備考
1.予備費	10,000	0	10,000	
合計(B)	10,000	0	10,000	
次期繰越収支差額(A-B)	28,056,099	28,130,247	△74,148	

(註) 平成19年度から特別会計を設け、¥3,000,000は基金として特別会計に移したものである。

収入の部

学生自治・厚生関係の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
1.海事科学部から受入	0	0	0	旧神船大自治会から預かり(註)
2.雑収入				
預金利息	5,000	0	5,000	
小計	5,000	0	5,000	
前年度繰越収支差額	4,711,183	4,711,183	0	
合計(A)	4,716,183	4,711,183	5,000	

支出の部

科目	予算額	決算額	差異	備考
1.学生自治・厚生費	1,500,000	0	1,500,000	
2.予備費	200,000	0	200,000	
合計(B)	1,700,000	0	1,700,000	
次期繰越収支差額(A-B)	3,016,183	4,711,183	△1,695,000	

(註) ¥4,706,314旧神船大学生自治会の処分財産であり、海事科学部学生の自治と厚生関係に使用する。

特別会計 合計 ¥32,841,430

平成21年度 海神会 収支予算書

(平成21年4月1日から平成22年3月31日)

収入の部

(単位:円)

科目	21年度予算額	20年度予算額	差異	備考
1.会費収入				
既卒業生・新入生・在学生	7,800,000	7,800,000	0	
2.雑収入				
総会懇親会参加費	500,000	0	500,000	
預金利息	10,000	10,000	0	
寄附・その他	0	10,000	△10,000	
当期収入合計	8,310,000	7,820,000	490,000	
前期繰越収支差額	3,391,853	5,149,539	△1,757,686	
収入合計(A)	11,701,853	12,969,539	△1,267,686	

支出の部

科目	21年度予算額	20年度予算額	差異	備考
1.事業費				
総会・評議会等経費	1,000,000	800,000	200,000	総会懇親会参加費を含む
会報発行費・送料	2,500,000	1,250,000	1,250,000	20,21年度2年分
HP維持費	250,000	250,000	800,000	
記念カラス会支援費、各支店費	2,200,000	2,350,000	△150,000	
関係団体関係経費、会員団作成	310,000	460,000	△150,000	神大校友会年会費等
小計(a)	6,260,000	5,110,000	1,150,000	

科目	21年度予算額	20年度予算額	差異	備考
2.管理費				
人件費	1,050,000	1,050,000	0	
会議費	30,000	30,000	0	
旅費・交通費	150,000	250,000	△100,000	
印刷費	100,000	100,000	0	
通信運搬費	50,000	50,000	0	
什器備品費	50,000	150,000	△100,000	
消耗品費	80,000	130,000	△50,000	
賃借料・光熱水費	70,000	70,000	0	
雑費	100,000	100,000	0	
小計(b)	1,680,000	1,930,000	△250,000	
3.予備費(c)	3,761,853	2,929,539	832,314	
小計(a+b+c)	11,701,853	9,969,539	1,732,314	
4.特定預金積立金				
特別会計へ拠出	0	3,000,000	△3,000,000	
小計(d)	0	3,000,000	△3,000,000	
当期支出合計(B=a+b+c+d)	11,701,853	12,969,539	△1,267,686	
次期繰越収支差額(A-B)	0	0	0	

平成21年度 海神会 特別会計 収支予算書

(平成21年4月1日から平成22年3月31日)

収入の部

(単位:円)

科目	21年度予算額	20年度予算額	差異	備考
1.一般会計から受入	0	3,000,000	△3,000,000	同窓会基金として移管
預金利息・その他	100,000	35,000	65,000	
小計	100,000	3,035,000	△2,935,000	
前年度繰越収支差額	32,841,430	29,747,282	3,094,148	
合計(A)	32,941,430	32,782,282	159,148	

支出の部

科目	21年度予算額	20年度予算額	差異	備考
学生自治・厚生関係	1,500,000	1,500,000	0	
1.予備費	200,000	200,000	0	
合計(B)	1,700,000	1,700,000	0	
次期繰越収支差額(A-B)	31,241,430	31,082,282	159,148	

特別会計は、「海神会」の基金的性格のものと神戸商船大学学生自治会の処分財産を管理するものである。
(内訳 平成19年度¥25,000,000の特別会計を設け、平成20年度¥3,000,000を基金として特別会計へ移した。)

- 1) ¥28,000,000は基金として置くものである。
- 2) 特別会計のうち¥4,706,314は旧神船大学生自治会の処分財産として大学から海神会に移された預かり金であり、海事科学部からの要請に基づき、海事科学部学生の自治と厚生関係を目的として、この預かり時の金額を上限として支出するものである。
- 3) 平成20年度までは、基金の部と預かり金(学生自治・厚生関係)の部を別々のものとした計算書になっていたが、平成21年度からは合わせた計算書とした。

※収支決済書並びに予算書に於いて疑問点がありましたら、事務局まで問い合わせください。

海事科学部創基90周年記念事業の基金についてのご報告



海事・海洋研究の国際的拠点構築について

本事業は、皆様にご支援いただいた「海事科学部創基90周年記念事業」として、また、神戸大学基金「海事・海洋研究の国際的拠点の構築」事業として、海事・海洋研究の国際的拠点の核となる「国際海事研究所」設立を実現しようとするものです。

卒業生や企業等の皆様から1億6,842万円(2009年3月末現在)にのぼるご寄附をいただきました。基金創設記念期間中に海事科学部創基90周年を迎え、これまで支えていただいた卒業生、



国際海事研究センター長 石田憲治

関係諸機関・企業の皆様はこの間の歩みや将来展望についてご報告をするため、「海事科学部創基90周年記念式典」を実施するとともに、「海事教育研究部門」、「海事安全管理研究部門」、「海事政策科学研究部門」、「海事産業研究部門」及び「

海事環境エネルギー研究部門」の5部門で構成される「国際海事研究所」設立に向けた建物の模様替工事を実施いたしました。

これらに、寄附金の一部2,600万円を利用いたしました。



海事科学研究科長 小田啓二

今後、残額を利用し、海事関連の研究(プロジェクト研究)、教育(海事関連の安全管理・物流・環境・エネルギー・英語等教育)、国際交流(外国人研究者招聘・受入、協定大学との学生交流活動)を推進させ、「国際海事研究所」の発展に役立てることとしています。

国際海事研究センター(平成21年10月1日設立)の整備充実として平成22年2月1日開所式が催されました。



第4回神戸大学ホームカミングデイへのご参加ありがとうございました

広報・社会交流推進委員会 山内知也

第4回神戸大学ホームカミングデイは2009年10月31日に開催され、おかげをもちまして無事終了することができました。当日参加していただいた皆様、準備の段階から色々と相談にのっていただいた皆様にこの場をお借りして深くお礼を申し上げます。本年度より海事科学部としての本行事への係り方を再考し、準備の段階から海神会や学生自治会とともに広報・社会交流推進委員会が主体的に動いております。

学部の企画としては、インドネシアから留学中の大学院生カルティカ君に” Save Energy and Marine Environment”と題する英語講演を、三村先生に学部で進行中の「輸送の三原則を統合した海上輸送システムの創出」についての講演をしていただきました。当日の目玉は小田研究科長の講演「Quo Vadis, 海事科学部?」で、海事科学部の将来像を、腹藏無く、熱く語っていただきました。学部の現状を皆様を知っていただく非常によい機会になったのではないかと考えております。

さて次年度の、あるいはこれからのホームカミングデイのあり方を考えていかなければならないのですが、その手がかりを得るために当日「学部企画アンケート」を実施しましたので、その結果をまとめておきたいと思っております。質問は全て記述式で6問あり、十六筆のご回答をいただいております。主な意見を以下にまとめました。いずれも私たち現役の教員には有益で興味深い、かつ、心に響くものばかりです。

ここで少しだけ私事を交えて考えているところを述べさせて下さい。阪大工学部の大学院博士課程を中退して商船大学の原子動

力学科(当時)の助手として深江キャンパスに寄せてもらってから二十一年になります。今では私の“ホーム”も阪大ではなくここ海事科学部です。助手になりたての頃、教員としてカッターに乗り込み内心ではビクビクしながらも分かったような顔をして学生に指示を出したりしました。一緒に乗っていただいた先生のおかげで大きなボロは出さずにすみませんでした(多分、帆走ではしっかり船酔いしましたが)、非常に新鮮な経験でした。船員教育は受けていないわけですが、広報を担当するとその魅力も含めて海事科学部の他にない良さを高校生にアピールする責任が出てきます。現在、教員の思いや思惑ではなく、在学生が本気で思っているところを学生の声として自然な形で学部の魅力を語ることでできるパンフレットを作成している最中です。現役の学生と意見交換する術をようやくこの歳になって学んだわけです。そんなわけで、ホームカミングデイはそのような立場にある者としてはうれしいうれしい限りでした。OBの皆さんと上手く意見交換する機会を見つけたいと考えていた矢先だったからです。海神会と一緒に海事科学部の広報をやりたいと考えております。アンケートにもあるように「教授以下教育陣の奮闘」が全くもって重要になっています。海事科学部で働く現役の教員が今の何倍も研究と教育に熱意をもって取り組むこと、これを抜きにして海事科学部の真価を社会に広く認めてもらえるような広報活動を展開することは不可能だからです。まずは次年度のホームカミングデイに来ていただきたいと存じます。そして学生とともに、私たち現役の教員にも、厳しくも暖かい応援の声を聞かせて下さい。心よりお待ちしております。

問1 キャンパス全体の印象はいかがでしたか?

おおもむね「良い印象」との回答をいただいたが、「明るく変わっている、但し活力不足?」「キレイですが雑草が気になりました」「六甲台に比し活気がない感あり」との指摘もあった。

問2 今回の講演会を中心にした企画はいかがでしたか?

「3講演とも良かった、特に小田先生のお話」といった研究科長の講演への高評価が多い反面、「卒業生による(学外)講演が一つは欲しい」「正直よくわからなかった」「盛沢山すぎて食傷気味」との指摘もあった。

問3 学部企画としてどのような内容を希望されますか?

「海運会の現状など船会社の実務担当の人の講演」「参加者から希望を聞いてみては」「もう少し現役の学生さんと触れ合う時間を」「懇親会会場は海の大学らしく海辺に」等のご意見をいただいた。

問4 学生・院生に向けてメッセージを

「外国語は英語だけではなく、他国語も積極的に」「海運(港湾物流を含む)、造船、船舶機械製造など企業では、海事科学の優秀な人材を待ち望んでいる。自信をもって海事科学教育を習得し将来に備えて欲しい」「理系であるが、物作り(ハード)の対岸にある運用者(ソフト)的立場であることを基礎にした見方を確立してもらいたい」「学生・院生のうちから海外との連携を意識した活動をしてほしい」といったアドバイスや、「在学生が出会ったとき挨拶してもらって嬉しく感じた」「覇気がない」といったご感想をいただいた。

問5 学部および教員に望まれること

「商船大の特色が失われて行くと思うが、いっしょになったメリットを十分に出して」「国際感覚が身に付くように、先生方やOBの経験を伝える機会を設けては」「国際性と先取りの精神」「入学生の偏差値の低さをなげくよりも、高い学生が希望するような魅力ある学部にする様に教授以下教育陣の奮闘が先。」「海運(船社)は単なる船員を求めている訳ではない。海事科学部卒の船員は将来幅広い分野で活躍の場がある。ライセンスに固執する必要はないが、現在よりは拡大した範囲(学科)での海技資格取得教育が望ましい。入学後の転科など含めもう少し柔軟性が欲しい。」等のご意見をいただいた。

問6 その他、ご意見、ご感想、ご希望など

「同窓会の会費集めが低迷している事は大変切実な問題。解決に向けて努力してほしい。」「学園の緑化、授業実習等の公開化等、市民が寄りやすい癒しと訓練の場に」「同窓会費から学部支援のため分配があるようだが、一律に分配ではなく困っているところへ集中的に支援したらどうか」「アンケートは必要ですが、毎度の回答は苦痛」といったご意見をいただいた。

予告

第5回神戸大学ホームカミングデイ
2010年10月30日(土)
記念式典:出光佐三記念六甲台講堂

神戸大学海事科学部硬式野球部

コーチ 土地茂樹 (E21)

私と野球部との出会いは38年前に遡ります。1972年春、神戸商船大学に入学して、すぐに野球部に入部しました。岩永道臣部長、吉村立成監督、服部行男コーチのもと、4年間、選手としてプレーしました。当時、野球と相撲は人気スポーツでしたので、勧誘しなくても部員数に困ることはありませんでした。チームのレベルは、今と同じように強くはなかったように思いますが、春秋のリーグ戦で最下位になったことだけはありませんでした。今の野球とは違い投手は連投が当たり前の時代でしたし、リーグ戦の半分が深江のグラウンドであったこともあり、試合が終わった後にも練習したことが記憶に残っています。

卒業後、しばらく野球部から離れていましたが、1995年ごろから、再び深江のグラウンドに足を運ぶようになり、15年になります。この間、神戸商船大学と神戸大学との統合によって、野球部を取り巻く環境は大きく変わりました。神戸大学と統合してから、大学からの援助がなくなった上、1回生は六甲台キャンパスで大半を過ごすため、深江キャンパスで活動するわが部にとって、部員の勧誘が非常に困難となりました。しかしながら、神戸商船大学体育会クラブの大半が統合または廃部していった中で、現在も海事科学部硬式野球部として活動が継続できていることを本当にうれしく思います。

最近の学生をみていますと、授業、乗船実習、実験実習に加え、アルバイト、資格取得、就職活動など、本当に忙しい学生生活を送っているように感じられます。こうした時代だからこそ、仲間とともにグラウンドでいい汗を流

し、野球という競技にのめり込んで、大いに活躍して欲しいと願っていますが…。さらに昨年は、阪神タイガースOBの鎌田実氏が、監督に就任し新聞紙上などで話題となりましたが、春秋のリーグ戦で1勝することはできませんでした。しかしチームのレベルは、確実に向上しています。

鎌田監督指導のもと、部員が一致団結し、今年は海事科学部硬式野球部が大飛躍する年となるよう張り切っております。卒業生の皆様の暖かいご声援をよろしくお願いします。



海事セキュリティ管理と実用英語に関する海外特別研修に参加して

海事技術マネジメント学課程航海群 卒業生 阪本夏子

私は4年生時の2009年9月13日～28日に海事科学部で実施された、カリフォルニア海事大学(CMA)でのISPSコードと実用英語に関する研修に参加しました。一昨年度、9名の先輩方が参加されたこのプログラムの報告会を聞きに行ってから、参加することをずっと願っていた念願の研修でした。今年度の研修には、4年生4名、3年生2名の計6名が参加しました。6名の英語能力は、私の様に英語を使うのが初めてのメンバーから、より高いレベルを目指して勉強しているメンバーまで様々で、課程・専門分野も異なる全員で協力しながら2週間を過ごしました。

研修は実用英語の講義と、保安管理者資格取得のためのISPSコードの講義によるものでした。実用英語研修ではCMAの教授であるProf.Robbに授業をしていただき、辞書を使わずに全て会話で解決する練習ができ、日常にも役立てることができました。またISPSコード研修では、保安管理者資格の取得を目指してCapt.Bruceに授業をしていただきました。1日2時間半の予定で組まれていた授業は、私達が疑問に納得いくまで説明していただき、4時間に及ぶことも多々ありました。ホテルに帰ってからも毎日夜遅くまでメンバー6人で勉強してテストに備え、英語でのテストに全員合格することができました。Capt. Bruceには色々な観光にも連れて行っていただき、カリ

フォルニアの気候の様に明るい毎日を送り、アメリカ文化にも触れることができたと思います。

今でもメンバーは現地で知り合ったCMAの学生と電子メールなどによる交流を続けています。これから社会に出て働く中で、活かせる経験・資格・絆を手に入れる機会を設けて頂いたことに感謝致します。



記念クラス会

class・reunion

神戸商船大学4期生「卒業50周年記念合同クラス会」(1959年卒業)

昭和34年9月卒業した4期生の合同クラス会を平成21年10月20日(火)有馬グランドホテルで午後6時「丹波の間」で開催しました。航海科19名、機械科22名の参加でした。早い人は午後2時半頃からホテルに到着し、4時半頃には全員揃いました。

幹事から4期生の住所録、大学入学時クラス全員の写真入り名簿及びコンパスと錨マークに50周年記念の文字がはいった特注グラスを受け取って部屋に入りました。温泉に入って一息ついて会場に向かい全員ゆかた姿で記念写真を撮り終えると宴会が始まりました。

50年を過ごした年輪を風貌に漂わせながらも歓談が進むにつれて懐かしい顔は学生時代を甦えさせてくれて予定時間もあっという間に過ぎてしまいました。宴会後も各科が二次会の部屋に移動して歓談を延長し夜遅くになってやっと散会しました。

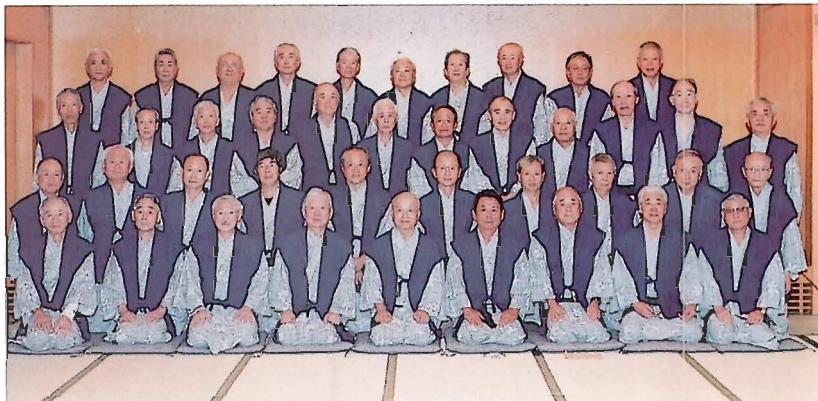
翌21日はゴルフ組と観光組に分かれ、ゴルフは明石ゴルフ倶楽部でWペリア方式でコンペを開始し、観光は比叡山延暦寺及びガーデンミュージアム比叡を見学しました。

これまで5年毎の節目に開催していた全国的な合同クラス会も今回で最後となり今後は各地域で随時開催することに決まりました。

前回(平成16年10月舞子ビラ)の合同クラス会以

後、機関科では平成18年9月10日に九州地区の「阿蘇白雲山荘」でクラス会を、翌19年9月15日に東北地区のお世話で八幡平松川温泉の「松川荘」で、また平成20年10月15日に広島地区の福山のリゾートホテル「ベラビスタ境が浜」でそれぞれクラス会を開催しており、各地域でお世話をいただいた級友の皆様に感謝いたします。なお、この度の50周年記念クラス会開催にあたり支援金をいただきました海神会に厚くお礼を申し上げます。

(村上文夫)



神戸商船大学4期生 卒業五十周年クラス会 平成21年10月20日 於 有馬グランドホテル

神戸商船大学14期生「卒業40周年記念合同クラス会」(1969年卒業)

平成21年4月に、関西及び関東の元気会の個々の飲み会の中から10年ぶりに同窓会をしようという声があがって、半年後10月24日(土)に神戸深江の母校にて、卒業40周年の記念として、しかも関係各位のご協力を得て停泊中の練習船深江丸にての、1泊2日の神戸商船大航海科14期生同窓会(出席者29名)が行われました。

卒業後40年ぶりに深江の地に戻って来た友も多く、又なつかしき練習船深江丸内での宴会と、泥酔後のボンクでの就寝は学生時代の青春時代の思い出が走馬灯のように駆けめぐり、若き日の友の顔と横にイビキをかき寝る髪の毛がなくなった友の顔が重なりあい、40年の年月を感じてしまったのは自分だけではないと思います。

翌日、日曜日校内見学と白鷗寮の見学を済ませ、昼には翌年度も同窓会を東京で開催する事を決めて、解散をいたしました。

最後になりましたが、今回急きょ、深江丸で同窓会をする事になり深江丸使用の件で、深江丸矢野船長及び海技実習センター長古荘先生には過分なるご協力を得たことと、海神会事務局長小林通宏様より40周年同窓会協力金をタイムリーに頂いた事をこの書面にて御礼を申し上げさせていただきます。

神戸商船大航海学科14期
同窓会幹事 立見五十七
平成22年1月15日



N24・E24・A4 卒業30周年合同クラス会(1979年卒業)

神戸商船大学商船学部航海学科・機関学科24期及び原子動力学科4期生(昭和54年9月卒業)は、平成21年10月11日(日)の午後神戸大学深江キャンパスにおいて卒業30周年クラス会を開催しました。開催に先だって海事博物館と練習船深江丸を見学した後、総合学術交流棟コンファレンス・ホールにてクラス会総会を、その後、海神会から賜りましたクラス会支援金で、夏季に深紅の花が咲く「サルスベリ」を記念植樹しました。植樹後の親睦会は同棟の玄関ホールで開催しましたが、中盤になって「寮歌」や「白菊の歌」が飛び出し、加えて凛々しいピンカートの白服姿による「自己紹介」も登場し、少人数ながらも大いに盛り上がりました。ほんの束の間ではございましたが、30数年前にタイムスリップし、あの頃の無邪気な笑顔がそこここで見受けられました。航海学科13名、機関学科19名及び原子動力学科6名、同伴者2名の計40名の出席に加えて、当時のクラス担任として、井上篤次郎先生、

橋本武先生、矢野淑郎先生及び三宅寛先生にご臨席を賜りました。卒業後初の合同クラス会の開催にあたりましてご支援をありがとうございました。クラスを代表しまして御礼申し上げます。

幹事:(N24)矢野 吉治



神戸商船大学・東京商船大学 卒業 30周年記念同期会

1978年(昭和53年)卒業の神戸商船大学航海・機関学科23期生及び原子動力学科3期生は、卒業30周年を記念し、東京商船大学航海・機関学科26期生と2008年(平成20年)2月9日・10日の両日、琵琶湖汽船の観光船「ビアンカ」にて、合同のクラス会を開催した。

観光船「ビアンカ」での開催は、卒業20周年そして25周年に続いて3回目である。当日、滋賀県の天候は大雪、地元交通機関はかなりの渋滞であったが、出席者は神戸N-21名、E-17名、A-10名、東京N8名、E-10名、クラス担任(23N)だった和氣博嗣先生(前大島商船高等専門学校長)もご出席戴き総勢67名となり、16時集合

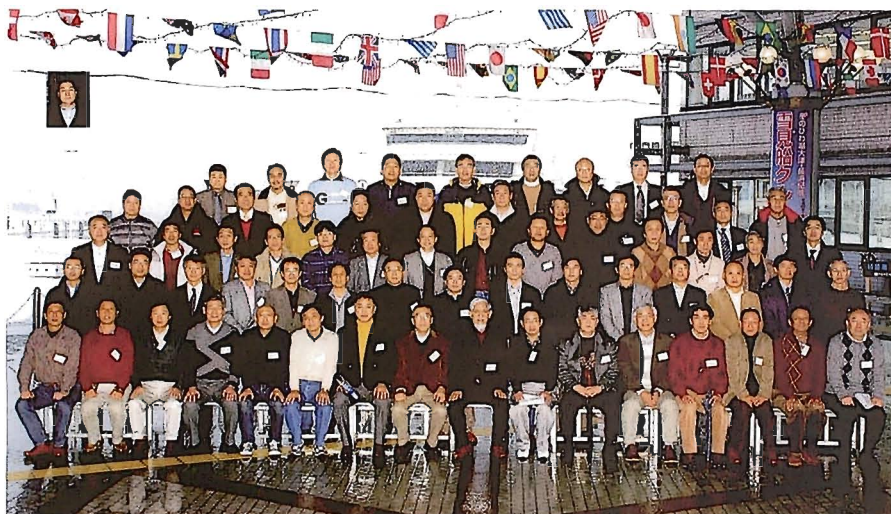
後、棧橋の待合所前で雪降りしきり中での記念すべき集合写真の撮影となった。

撮影後、一同「ビアンカ」に乗込みナイトクルーズ出港と同時に宴会が始まった。来賓の先生のご挨拶に続き乾杯、東京・神戸それぞれの現教授(幹事他)による大学の近況報告があった。母校の統合や独立行政法人化に30年の歳月を改めて感じた。酒宴がすすみ互いの近況報告の話題も学生の頃へと移った頃には、30年来の再会者とのたどたどしい記憶や大いにお互いに変わった容姿も当時の記憶とすっかり重なり、「おい」「お前」の会話に戻っていた。船もいつの間にか岸壁に戻り、あっという間に3時間が過ぎ一次会もお開きとなった。船に泊まるメンバーは、引き続き4Fサロンにて二次会(酒、つまみ持ち込みにて)と相成った。練習船の実習や寮生活の事など場所は変われども話は尽きず、されど日付が変わる頃には酒量も限界に近づいたのか1人、2人と去り、幹事も時間は定かならず。酒は多少余っていたのだが…消灯。

翌日は前日とは打って変わって快晴、船の前方には雪化粧の比叡山とその背景の靑空が広がり、二日酔いも忘れんばかりのパノラマ展望をしばし楽しみながらの朝食後、別れを惜しみながら9時には下船。琵琶湖・京都など近郊の観光組や直接帰省組に別れ解散した。

最後に、琵琶湖汽船の桂(23N)君及び「ビアンカ」のクルーの皆さんに大変お世話になりましたことを出席者一同より感謝申し上げます。

文責:幹事・伊藤 肇・23N



東京商船大学第26回(N-E) 神戸商船大学第23期(N-E) 第3期(A) 30周年同窓会 平成20年2月9日 於 大津港



村田 惇雄



外国航路の船長を夢みて高知県海南中学校から昭和16年11月旧神戸高等商船学校航海科第43期生として(現在の神戸大学海事科学部)入学したが、間もなく太平洋戦争となり、本来なら五年六月月かかって卒業するところを、わずか三年一ヶ月で昭和19年12月卒業となり、山下汽船株式会社に入社と同時に海軍に応召、海軍少尉となり航空母艦海鷹、ついで駆逐艦初霜に乗艦海軍中尉となり、終戦を迎え、昭和20年9月復員、元の会社に復帰し、二等航海士として商船に乗り組み、復員輸送、米軍の物資輸送などに従事していたが、昭和24年に海上保安庁に入り、昭和27年海上保安庁のなかに現在の海上自衛隊ができたので、これに移籍され、約15年努め、昭和42年に海上自衛隊を退職し再び商船界に身を投じ、昭和60年まで、小は6,000トンから大は65,000トンの船長を務め、その間、世界を一周すること三回、立ち寄った国は、49か国に及んだ。それらのことどもをごく一部であるが、思い出すままに書いてみたい。

1、ラバウルにて

昭和42年から約1か年間、ニューギニア、ニューブリテン島方面と日本の間の材木輸送に従事した。ニューブリテン島各積地に行くには、まずラバウルに入港し、そこで検疫、通関を済ませ、材木積み関係の現地人夫を約20名乗せて、夕方ラバウルを出港し、翌朝積地に着くようにしておいた。ラバウルに向かうには日本から略南東に針路をとり、13ノットの速力で走れば、約10日でラバウルに着く。その間、見える島といえば右にグリメス島左にフィヤオ島、ササオン島だけであとはニューブリテン島の東方に横たわっているニューアイルランド島にたどりつき、波静かなビスマルク海に入りラバウル入港となる。入港時間はおおむね朝でラバウルで検疫、通関が終わったあとは夕方の積地むけの夕方出港まで別に用はないので、その間市内見物、買い物などを楽しんでいた。例によって天候快晴の早朝入港するとき、入り口の岬の波打ち際で、現地人の少年が真っ黒い身体に朝日を浴びて、本船に向かって「みよ東海の空明けて旭日高く輝けば……」大きな声で歌っているのが印象的であった。また現地人は山本五十六元帥の名前をよく知っており、たまたま、本船乗組のなかに山本という姓の人がいたところ、彼に向かって現地の人達は、お前は山本元帥の親戚かとか、日本に山本は何人くらいいるのか、などしつこく聞いていた。現地人たちは、船にきたとき「見よ東海の……」の歌や日本の軍歌をよく歌うのに、日本船の若い連中がこの歌を知らないの、どうしてお前たちはこの歌を知らないのかと、不思議がっていた。上陸すると時には車でラバウル南側の一番高い山の上に行き(ここは旧ドイツ軍司令部のあったところ)湾内を眺めたり、飛行場にも行ってみた。かつて太平洋戦争中は日本海軍の最重要基地であり、湾内には日本艦船が多数停泊し、飛行場には海軍機が銀翼をつらねて、勢揃いしていた頃とくらべればまことに閑散としていた。通関事務のため来船するオーストラリアの税関吏はなかなか親日的で、彼がくれた名刺の裏側には「ノンバー、トラサン」と印刷してあり、味噌汁と柔道が大好きで、時々来船した同僚に柔道はこうやるんだと、柔道の実演をやったりしていた。

ある日、本船に関係のある材木会社の重役が大阪からニューブリテン島に材木事情の視察に来たことがある。彼は英語が全然話せないの会社からは「この人は英語が話せないので何分よろしく」との連絡がきておった。彼は飛行機で大阪から香港につき、香港でシドニーゆきに乗換え、シドニーからラバウル行きに乗換えることになっており、本船関係の駐在員がラバウル空港に出迎えたところ、飛行機から降りてきた

例の重役は、作業服に地下足袋といういでたちで、彼の左右の腕は二人の美しいオーストラリア人のスチュアデスにしっかりとつかまえられていた。彼の到着の第一声は、「オイ英語が話せんということはエエモンジャーノ、両手に花とはこのことじゃ」と意気軒昂たるものであった。彼の話では、日本の会社からも彼の英語の話しめことはすでに航空会社に手配済みで、香港、シドニーでもスチュアデスに引き継がれ、スチュアデスの嚴重監視のもとでラバウルまでやってきた由、現地での材木積み込み中、彼は本船に寝泊まりして、材木の切り出し現場や積み込み状況を調査されていたが、なかなか人柄もよろしく、現地人も彼に大変好感をもっており、言葉は話せなくても、仕事はチャンとできておった。

何回かラバウルを出入港したが、あるとき、錨を揚げようとしたがどうしても錨が何かに引っかかって揚げることができなかった。

現地代理店がラバウルでナンバーワンという潜水夫をつれてきて、水深27メートルの海底を調べてもらったところ、戦時中に沈没した日本貨物船の石炭を満載した船倉の中に本船の錨が入っているとのことであり、その潜水夫の指示通り本船を前後左右に動かして揚錨機を動かしたら、錨は無事揚がってきた。よく見ると錨の爪に細かい石炭の粉がついていた。その潜水夫は50才位で、潜水メガネのほか腹にチェーンを巻いているだけで、潜水技術は見事なものであった。

ニューギニア、ニューブリテン方面では女の数が少なく、女中、女店員などはあまり見かけなく、男のボーイがこれに代わっていた。したがって、男性はなかなかの結婚難で生涯独身で過ごさざるを得ない男性も可成りいる由、積地駐在員の話では、軽い気持ちで現地の娘さんに近づいたりしていたら、男たちから、とんでもない恨みを受け、場合によっては後ろからプスリとやられることもあるので注意するようにとのことであった。

現地での荷役作業は約10日で終わり、いよいよ日本むけの出港となるが、出港直後は皆一応ホットする気分になり船が障害物のないところに来ると、非直の乗組員が材木の上や甲板に集まって缶ビールに喉を潤し、遠ざかりゆくニューブリテンの島々を懐かしそうに眺め、「さらばラバウルよ又来るまでは……」と昔よく歌ったラバウル小唄を口にしている姿を見かけることもあった。これが戦時中であつたら、「対空、対潜警戒を厳にし、悲壮な思いで出港していったものを」と思い、平和の海の有難さを感じた次第である。この航路で誰かが作った歌「10日ほど船にも会わず雲の峰」「雲染めて今日の太陽椰子に落つ」「冷房の船に赤道知らず過ぎ」南方航路は、ほんとに良い航路であった。

第8号につづく



2010年学内の主な行事

4月 6日 入学式:ワールド記念ホール 新入生オリエンテーション:深江	8月 12日 夏季休業(-9月30日)	12月 17日 耐寒行事:六甲登山	2月 25日 前期日程入学試験
4月 9日 前期授業開始	8月 22日 船舶実習1(1年1班)(~9月21日)	12月 25日 冬季休業(-1月6日)	3月 12日 後期日程入学試験
5月 15日 神戸大学創立記念日	9月 24日 乗船実習科修了式(深江)	1月 1日 船舶実習3(4年)(~3月31日)	3月 25日 学位授与式:ワールド記念ホール
5月 15日 海神会理事会・総会・懇親会	10月 1日 授業開始、船舶実習2(2年)(~31日)	1月 15日 大学入試センター試験(-1月16日)	3月 27日 春季休業(-4月5日)
5月 22日 深江祭(-5月23日)	10月 30日 ホームカミングデー・海神会評議会	2月 4日 後期定期試験(-2月10日)	
7月 30日 前期定期試験(~8月5日)	11月 5日 船舶実習2(3年)(~12月5日)	2月 16日 授業終了	
	12月 4日 AO入試(~5日)	2月 24日 船舶実習1(1年2班)(~3月26日)	